

創刊200号記念&文化祭



1975年の創刊以来、生徒・保護者はもちろん、多くの皆さまにホットな話題を提供し続けた「学校通信」も、

今号で200号を重ねることができました。

これもひとえに皆さまのご支援によるものと感謝いたします。

この40年間は本校が大きく成長・変化した激動の時代でした。

その時代を支え、本校の教育を推進してきた先達たちの座談会を今号では企画いたしました。

ぜひご一読ください。

今後も本校のさらなる発展を願ってやみません。

学校長 井戸 裕久

第39回地域懇談会「子どもたちの未来をソウゾウしよう」
～一人で抱えこまないで…。子育てに答えはない～

同朋高校独自の学校行事「地域懇談会」が、今年で39回目を迎えることができました。地域懇談会は、先生方が皆さまの住んでいる地域へ出向き、先生と保護者が、学年・クラス・学科を越えて気軽に話ができる会のことです。

進路や学校の様子などを先生から聞くことができるだけでなく、同じ地域ならではの共通の話題や、子育てで不安に感じていること・悩んでいることなど、アットホームな雰囲気でお話し合うことができる場となっています。

今年も多くの保護者の皆さまにご参加いただきました。各地域の企画もさまざま、卒業生や卒業生の保護者による体験談、卒業生の演奏会、先生の講演、体育大会・文化祭や日常生活のスライドなどの上映、意見交流などがありました。理科の先生による実験を体験し、子どもたちがどのように学ん

でいるかを知ることができたり、心理学・カラーセラピーを学ぶことができたりと、話をだけでなく、保護者の学びの場にもなっており、たくさんの方から「参加して良かった」という意見をいただきました。懇談会のあとに食事をしながら、さらに懇親を深めた地域もありました。

地域懇談会で出されたご意見は、11月7日に行われる「同朋オープンフォーラム」に反映されます。こちらは、同朋高校の教育環境がより良いものになるよう、生徒・先生・保護者の三者で考え話し合える場です。今年度は公開授業もありますので、来年の地域懇談会はもちろん、同朋オープンフォーラムへ多くの方のご参加をお待ちしています。

(PTA地域懇談委員長／竹村 和美)

「同朋オープンフォーラム2015」に
ぜひご参加ください

今年も、生徒・保護者・市民・教職員の四者で「教育・学校づくり」を考え、話し合う「同朋オープンフォーラム2015」を実施します。昨年度末から何度も打ち合わせを行い、準備を進めております。

今年は「子どもたちの未来をソウゾウしよう～18歳を大人にするために、力を合わせよう～」をテーマに開催します。公職選挙法が改正され、18歳で選挙権を持つようになりました。選挙権を持つということは、社会に対して責任が生まれます。

家庭で、学校で何ができるのか。本校の授業実践などもご覧いただきながら、一緒に考える機会としましょう。さまざまな企画がございますので、多くのご参加をお待ちしております。

(実行委員会事務局／寺町 健)

日時：2015年11月7日(土)9:00～12:00

開催場所：本校 多目的ホール ほか

スケジュール：① 全体会

② 参加型特別公開授業(国/社/数/理/英/商)と土曜特別授業参観

③ 分科会

・見えないものを見る力

～大人な18歳になるために～

・親子でそこまで言っていない会

～進路決定までの道のり～

・子どもたちを自立させるサポートとは

～ぼくも私もYDK(やればできる子)～

・授業をためてがってん!!

～みつかる みつかる きづく 新しいこと～

Schedule 〈行事予定〉

11月		
4	水	防犯セミナー
7	土	同朋オープンフォーラム
8	日	珠算電卓検定 秘書検定
11	水	生徒会立会演説会
22	日	ビジネス文書実務検定
27	金	報恩講(1年生)
28	土	学園研鑽日
30	月	午前授業 1普2普期末考査
12月		
1	火	期末考査(～4日)
5	土	PTA常任委員会
15	火	修学旅行1団出発(～18日)
16	水	修学旅行2団出発(～19日)
17	木	修学旅行3団出発(～20日)
18	金	マナー身だしなみ講座(3年商業科)
21	月	終業式
1月		
7	木	始業式
8	金	音楽科卒業演奏会
13	水	1年生進路ガイダンス
21	木	3年生卒業試験(～27日)
22	金	英語検定
23	土	PTA常任委員会
24	日	簿記検定
28	木	推薦入試
31	日	情報処理検定
2月		
4	木	一般入試
7	日	商業経済検定
19	金	卒業式リハーサル
20	土	卒業式

2015年度・秋の
「助成金拡充請願」活動について

今年度も『オータムフェスティバル(地域別県民文化大祭典)』を県下38会場で開催しております。それぞれの会場で県議会議員さんにご登壇いただき、愛知県や市町村の「助成金拡充請願」についてもご理解をいただいております。

本校では責任・担当会場となっている11会場を中心に、生徒、保護者、卒業生とその保護者、本校教職員、また他私学関係者や市民とともに、準備・運営を進めております。

同朋学園助成金推進協議会としても、今後開催される11月7日(土)の同朋会場(名古屋市中村会場/メインゲスト：尾木直樹氏)を一つの大きな結節点としながら、さらに大勢の方の理解を得たいと考えております。

今後、12月の愛知県議会にて審議される『請願署名』採択に向けての活動、ひいては2016年度以降の私学教育を左右する大切なフェスティバルが続いていきます。「私立高校無償化」「教育の公平」の実現のため、「オータムフェスティバル」の参加、助成金拡充請願署名へのさらなるご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、オータムフェスティバル運営協力券の普及、これまでの集会への参加・運営・準備など、多くのお力添えをいただいておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。

(同朋学園助成金推進協議会/寺町 健)



学校通信創刊200号記念特集

本校学校通信は、昭和50年(1975年)5月に創刊されました。

創刊号は、当時の名古屋市長である本山政雄氏から「**同朋高等学校は、建学の精神である『仏教精神にもとづき全人教育を通じて正しい世界観を持つ、個性豊かな人間を育成する』を貫く学校でなければなりません。そうした意味から、同朋高等学校は仏教精神を中心に、真理探究、相互和敬、体位向上という校訓に貫かれた人間形成と知識(真理)勉強を並行させる学校であってほしいと考えます**」と文章を寄せていただきました。

また、当時の学校長である松本義照先生からは、学校通信創刊寄稿「同朋」の中に「**人間は本来、深い意味において共にあるという存在であるが、それを常に見失い、自分の知識的判断**

によってのみ人を律しようとしています。今日の教育において、とくに大切な問題は、その見失われている人間の共存的意味を本当に自覚することによって、ともに教えられ、育てられるという共通の立場にかえることである」と記されました。

学校通信創刊から40年。今号で200号を数えます。また、2018年には創立60周年を迎えます。本校は、本山市長や松本元学校長からお寄せいただいた「想い」を大切にした教育活動をこの間に行ってまいりました。そこで、今までの本校の教育活動を振り返り、これからの「同朋の教育」を考えるための座談会「温故知新」を、学校通信創刊記念座談会で進行をされた酒井浩朗先生、新任教員として参加された米村和俊先生に加え、米澤正治先生、岡山優先生をお招きし開催しました。

学校通信200号記念座談会

「温故知新」

平成27年8月7日
於 同朋高校会議室

【参加者】

酒井 浩朗 先生
(2004・3 数学科 元学校長)

米澤 正治 先生
(2012・3 商業科)



米村 和俊 先生
(2010・3 理科 元教頭)

岡山 優 先生
(2015・3 音楽科)



井戸 裕久 学校長

司 会 宮城 道良
書 記 寺町 健
写 真 久保田 彩
安藤 瑞基

1979年に赴任しました。先日、同窓会の総会が名古屋駅のホテルで行われました。私が初めて担任した生徒たちが本当にたくさん集まってくれ、嬉しかったです。

岡山 この春定年退職しました岡山です。いろいろなことから解放されて、本当にほっとしています。現実の学校教育を見ると、特に大学は選ばれる学校を目指してキッチリしないと立ち上がれない時代になるという不安を持っています。これは高等学校も同様です。

同朋の教育とは

酒井 私は最初から同朋高校に在職していたわけではありません。最初はサラリーマンをしていたのですが、挫折というか、いろいろとありましたが、そこで、学校の先生にでもなろうと思つて、1年程度の腰掛けのような気持ちで教員になったのです。それから定年退職するまでずっと同朋に勤めました。なぜかと言えば、一緒に働く教職員のメンバーが良かったからです。昨年亡くなられた高崎友秀元学校長をはじめ、とても面白い仲間に出まれて仕事をしています。当時の生徒には、正直なところ嘸然としました。私が過ごした高校時代とはまったく違う授業姿勢だった同朋の生徒を目の当たりにして、本当にびっくりしました。このままにしてはいけないうと、仲間と毎日のように学校近くの居酒屋で「これからの同朋の教育」について真剣に語り合い、それを実践につなげました。なんとかして、この生徒たちに学力とプライドを身につけさせ、自立させたいという気持ちがあったのでしょうか。当時一緒に仕事をした仲間

は、みな同じ思いだったと思います。そして、そんな議論ができるこの集団に私は惚れていま



した。当時の私たちは、どうやらすべての生徒にきちつとした学力を定着させることができるかを中心に議論しました。そこで作ったテーマが「すべての生徒に生きる力」です。この頃に基礎学力検定・基礎検をスタートさせ、全員1級合格にこだわりました。何としても生徒全員に学力をつけさせたかったです。当時の同朋は、勉強が苦手な生徒が多かったのであえて教科書を使わずに、数学の歴史や数学を活用したゲームを取り入れたこともあります。勉強が苦手な生徒も、他校の生徒に対して「数学を使ったこういふ考えができる」と鼻高々に語ることができたそうですよ。そんなふうに、自己肯定感のない生徒にプライドを付けさせたこともあります。

米村 当時の私立高校は、公立高校の補完校という考えがあつたこともあり、「屈辱から誇りへ」をテーマとしていました。当時の生徒は、とにかく勉強に自信がない生徒が多かったです。そういう生徒にどうやって「生きる喜びと自信」を持たせるかを考え、基礎学力で迫りました。それと同時に自主活動面でも誇りある活動に取り組み、「オレ達の文化祭ってまんざらでもない」と誇りを持って取り組むことに焦点を当てました。偏差値レベルで比較するのではなく、「俺たちの学校はまんざらでもない」と自信を持つ子どもたちが、いきいきと学校で生活する。そんな学校を目指しました。こうした生徒の姿が親に伝わり、親の安心感・感謝につながり、それが秘かな評判となつて、「お兄ちゃんが通う学校に子どもを通わせたい」と小さな同朋ファンが形成されたのです。そうした中で同朋高校に通う生徒の層が変わつてきたのが1980年代から1990年代だつたと思います。

寺町 その当時在職していた先生方は、よく「教育で死ぬなら本望だ」と言われていましたね。

米村 以前、「私学危機」と言われる時代がありました。多くの私学は、これを克服するために、女子校や男子校が男女共学にすることで間口を広くし、学校が潰れないようにしました。また「特進クラス」を作つて、進学で勝負できる生徒を集め、いわゆる「いい大学」に生徒を送り、その進学実績から次の生徒を集めるといふ、姑息な特進路線を歩む学校も誕生しました。このようにして、学校が生き延びることを第一の目的として、「良い教育づくり」は二の次になっていました。これは同朋高校が目指す教育の形ではありません。そんな教育で生き残りを図ることは虚しい。やっぱり「同朋の教育」は、

宮城 本日は暑い中、学校通信200号発行記念座談会「温故知新」にお越しいただき、ありがとうございます。「同朋の教育」に長く携われた先生方からお話を伺い、それを継承し、さらに発展させるための座談会を設定しました。保護者の中には、本校の卒業生で、二代続く同朋ファミリーもおおいです。そこで、当時お世話になつたであろう懐かしい先生からの声を届けたいとも考えています。それでは、本校の教育をより良いものにするために、諸先生方から忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。はじめに、学校長よろしくお願ひします。

井戸 同朋高校は、私が奉職している時期に大きく発展してきました。その原動力となつたのが、本日お越しいただいた先生方の世代です。大きく同朋の歴史を変化させてきた先生方からお話を伺うことで、私たちが、そして次を担う若い先生たちがしっかりとそれを継承し、さらに同朋高校を発展させ、現在在学している生徒、これから入学してくる生徒が「同朋に通つて良かった」と言つて卒業する学校を目指していきたいです。本日はどうぞよろしくお願ひ致します。

酒井 酒井です。10年ほど前まで校長をしていました。学校現場から離れ、自由気ままな生活を楽しんでいきます。ときどき社会的な活動にも携わっています。昨年大病を患いましたが、初期だったこともあり治療することができました。

米村 米村です。同朋高校を定年退職してからは、公立高校で数学や理科を教えています。同朋高校乗馬部の指導もしています。また私も教員としての需要があるようですので、需要がある限り80歳くらいまで教員を続けようかと思つています(笑)。

米澤 商業を担当していた米澤です。私は



光り輝いて素晴らしい理想の教育を作らなければならぬのです。生懸命それを目指した教育を作つてそれで死ぬのだったら、それは本望だという気持ちで、私たちの世代は教育をしてきました。ただ、飯を食うために働いているのではありません。日本には他に無い素晴らしい教育を作つて、それで飯を食いたいという気持ちで働いてきたことが、同朋高校と他校の違いです。それが「同朋が同朋たる所以」で、それが無くなつたら同朋ではありません。

商業科

宮城 今まで普通科の話を中心にいただきましたので、商業科や音楽科の話を伺えますか？

米澤 私は、もともと商業の教員ではなかったのですよ。商業というと簿記などが代表的な科目として挙げられますが、私は経済が専門



だったので、簿記のような実務的な科目は思想性がないと軽蔑していたのです。でも、同朋高校に赴任する時に「商業を教えることができるか？」と当時の校長先生に言われ、「できます」と答えてしまったのですね。それからが大変でした。「商業教育とは何か」というものが分からないのですから。当時の商業科の先輩方は、各分野の「職人」のような先生がたくさんおい

ででした。しかし、商業教育を受けてきた教員という、伊吹さんと平野さんが同朋に赴任されるまでいませんでしたから、毎日手探りで教育づくりをしていました。

米澤 昔の商業科は全員が就職していたのですが、しばらくするとチラホラと進学する生徒も現れるようになりました。しかし、学校の統計資料には商業科からの進学実績は掲載されなかったのです。普通科の実績だけだったのです

よ。商業科が蚊帳の外のように感じることも

ありました。今思うとそれは仕方がなかったのかもかもしれません。私たちの中に「商業教育とは」という確固たるものがなかったのですから。これではいけないと、今教頭をされている梅田さんが赴任したあたりから、商業科としての同朋の教育を考えていきました。検定試験に力を入れるようになったのもこの頃からです。社会に出てからも困らないように、服装をきちんとさせたり、挨拶をさせたりという点にこだわりました。基礎学力とは異なるかもしれませんが、社会人としての基礎教養ですからね。授業では、昨日の新聞の話といった内容を雑談がてらしたこともあるのですよ。もちろん、授業に

関係する雑談ですよ。当時の生徒に会うと、「先生の授業は覚えていないけれど、雑談は覚えている」なんてよく言われます。私は、それだいたいと思うのです。人間としての余白の部分とでもいうのでしょうか。カッコよく言えば「リベラルアーツ」です。最近の先生は、授業に対して非常に真面目に熱心に取り組んでいます。それはいいことですが、授業として教えなければならぬことだけでなく、その周りにあるほんやりとした部分を伝える能力も必要だと思いま

すよ。

米澤 同朋の生徒、特に商業科の生徒は人懐っこいところがあります。そんな生徒を大切にして、卒業してからも付き合えるような関係を築く学校であってほしいですね。

音楽科

岡山 「私学ならではの教育」を端的に表しているのが音楽科ではないでしょうか。本校の音楽科の規模は確かに小さいです。愛知の高校

音楽教育は、公立高校が絶対的な存在としてある中で、ともすれば私学は脇に見られてしまします。そうした環境下で、多くの私学の音楽科は廃科を余儀なくされました。そうした中、本校音楽科が生き延びることができたのは、生徒に誇りを持たせ、各種取り組みから「音楽の本質」を学ばせ、公立高校の音楽教育路線に追随しなかったことが大きな原因だと思います。本校音楽科の独自路線とは、基礎的な教養からしつかり取り組むことが重要であるという点です。



岡山 同朋高校は衛生看護科を含めて4学科あったこともあり、学校全体の中でどのように調整し、教育を進めるのがとても難しかったです。そのような中、本日の酒井先生が学校長の時に「好きなようにやればいいよ」と言われました。その言葉のおかげで、名古屋音楽大学との高大連携もうまく機能し、こうして生き延びています。私たちは新しいことを

1つではないでしょうか。

酒井 今年の同窓会は体調の都合で欠席させていただきましたが、その今50歳になる自称「史上最悪」の連中は、私もその学年の商業科を1年間担任していました。そのあとの2年間を米澤先生が引き継いでくれたのですよね。その教え子たちが実は退学した生徒も含めてたくさん同窓会に参加しようと動いてくれたそうなんです。なかには、「自分は退学したから同窓会は恥ずかしくて出られないけど、先生に懺悔したいから2次会に参加する」という参加者もいたそうですよ。

米澤 そうです。総会の後から参加した卒業生を含めると、総勢100人くらいの生徒に会いましたかねえ。当時の生徒たちは、今でもよく会ったり、2年に1度学年独自の同窓会をしたりととても仲がいいのですよ。特に商業科は強い結びつきがあります。よく「商業科はクラスが少ないから結束が強い」と言われますが、商業科は最高で6クラスまでありましたから、それだけが原因ではありません。商業科には勉強が得意な生徒も苦手な生徒も集まりますが、商業専門科目は高校からのスタートです。今までの勉強の得意不得意よりも、今からの学ぶ姿勢が重要になってきます。大げさに言うところから全体的に向上心が生まれ、クラス「緒」になって取り組む姿勢が生まれやすいのかもしれないですね。同朋を慕って、卒業後も学校に遊びに来てくれる商業科の生徒は多いですよ。同朋が目指してきた教育と、商業科という存在とが、うまくマッチしているのかもしれない。

岡山 一人ひとりの生徒をどう育てるか、きめ細かな指導ができるのは本校の特徴。誰もが「こうありたい」というものを抱えています。一人ひとりのそうした思いを大切にし、それにどう近づけるかが私たちの仕事だと思います。

いっぱいやれた時代に教員生活を過ごしました。新しいことをやろうとした時に、全体がそれを後ろに引つ張つてはいけません。誰かが新しいことをやってみて、それが良ければみんなその方向へと動けばいいのではないのでしょうか。

酒井 今の学校は、忙しすぎるのではないですか？

岡山 そうかもしれません。しかし、いろんなことにチャレンジするために、緩める部分は緩めてもいいと思います。チャレンジすることができないと、極めて保守的になってしまいます。もう少し自由に動くべきです。動かないことは変わらないこと。つまり停滞しているのです。

岡山 音楽教育に関して言うと、公立の教育も基礎的な部分が抜けているので、バランスが悪い音楽教育となっているのが実状です。そのような音楽教育を受けた生徒がこれから先生になるのだから、どんなおかしな音楽教育へと進んでいく危惧があります。本当の意味での音楽を理解して実践しなければなりません。クラシックが低迷しているのはそこに原因があると思います。そこで、本校音楽科は、基礎基本を大切にしながら、バランスよく幅広い知識を学ばせる音楽教育の原点に戻ろうとしています。あえて原点に戻り、バランスある音楽的教養を身につけることは、社会に出てでも通用します。同朋音楽科が名古屋の音楽界を変えていくつもりです。

岡山 今は井戸校長が同朋高校をよりよくしようと奔走しながら努力されています。米村先生は在職中に「同朋教育研究所」なるものを立ち上げ、教職員に向けて最新の学校教育情報を提供していました。果たして、今の教職員は、これからの教育をどのように考えるのでしょうか。今までの諸先輩方が作り上げてきたものを継承しつつも、そこから新たに脱皮して

最後に

井戸 本日ご参加いただいた先生方が言われた「次の発展」というのは、先生方の次を担う世代として深く感じています。同朋高校が飛躍できたのは、「同朋の教育」もさることながら、2度の入試改革や他校の男女共学化が大きかったと思います。そこを契機に、プラスで同朋の教育を変えて、より充実させていくという視点からすると、私にも反省があります。若い世代がどんどん新しい教育実践を提案して、ひたむきに取り組む姿勢を大切にしていきたいと思っています。私にとっても非常に刺激を受ける座談会となりました。本日はわざわざお集まりいただき、ありがとうございました。



学校通信創刊記念座談会のようす(1975年)

寺町 先ほど米澤先生からもありましたが、先日同窓会総会が行われました。そこには、今年50歳になる昭和58年卒業の同窓生が大勢来てくださいました。その参加者の中には、現在の本校の保護者の方がおられました。

井戸 1年生には卒業生が保護者である家庭が、確認できるだけで13世帯在籍し、PTA役員を引き受けてくださっている方もおおい

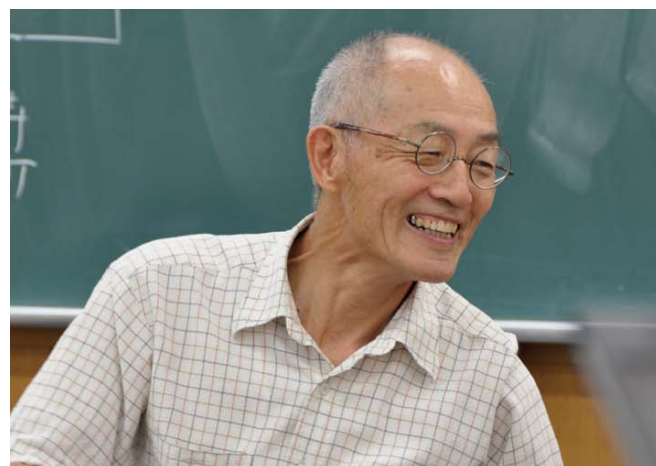
です。

寺町 高校にはお世話になったから、子どもを同じ環境で学ばせたいと考えている方もおおい

のようですね。先日の地域懇談会で、「主人が砂山岳洋先生率いるソフトボール部で活躍して

いました。実は私はそのマネージャーをしていたのですよ」なんて話をされていました。

米村 つい先日、愛知芸術文化センターで芝居を見ました。私の教え子が出演していたのです。彼が3年生の時に、ミュージカルと称した芝居を文化祭で取り組みました。彼はバンド活動をしていたこともあったので、音楽監督として曲作りなどにも携わりました。これが原点となつて、演劇劇団に入り、結婚後も子どもた



同朋の教育のあゆみ

-
- A vertical timeline on the left side of the page, marked with green dots and connected by a green line. The timeline lists the following events:
- 1958年度 東海同朋学園大学附属高等学校として普通科2学級にて開校
 - 1959年度 同朋高等学校に改称
商業科開設
 - 1967年度 音楽科・衛生看護科開設
 - 1972年度 校歌制定(作詞/サトウハチロー)
 - 1975年度 学校通信創刊号発行
河川敷グラウンド設置
第1回陸上競技大会(のちの体育大会)
 - 1976年度 文化祭改革(クラスを基礎に、全員参加、高い文化の追求)
 - 1977年度 第1回地域懇談会開催
基礎学力検定(基礎検)がはじまる
クラス連合(クラ連)発足
音楽科第1回定期演奏会
 - 1978年度 オリエンテーション合宿(のちのフレッシュマン合宿)がはじまる
 - 1979年度 現体育館完成
卒業式改革(手作り卒業式がはじまる)
「同朋の教育」創刊
 - 1982年度 現C号館東半分完成
 - 1984年度 文化祭一般公開がはじまる
映画「それぞれの旅立ち」本校中心に撮影
 - 1988年度 現C号館西半分完成
- 全国ロードショー

-
- A horizontal timeline with a green line and circular markers at each year. The years are listed on the left, and the corresponding events are listed on the right. The timeline starts at 2015 on the left and ends at 1990 on the right.
- | Year | Event |
|--------|---|
| 1990年度 | 沖縄修学旅行がはじまる |
| 1994年度 | 同朋教育フォーラム(のちのオープンフォーラム)がはじまる |
| 1995年度 | 現B号館完成
生徒会が「僕らの学校づくり宣言」を発表する |
| 1996年度 | 体育大会改革(縦割り群団制の導入)
服装自由化に向けた全校集会を生徒会が実施する |
| 1997年度 | 全教室に冷暖房が設置される |
| 1998年度 | 服装自由化がはじまる |
| 1999年度 | 衛生看護科募集停止(2001年度3月廃科) |
| 2000年度 | 文化祭改革(学年ジャンル制の導入) |
| 2004年度 | 現A号館・D号館完成
教育改革プロジェクト発足 |
| 2006年度 | アドバンスプログラム(AP)・
エクステンションプログラム(EP)がはじまる
「名古屋平成中村座」が18代中村勘三郎を座頭に
体育館を改装して公演される |
| 2007年度 | 標準服改訂 |
| 2008年度 | 創立50周年記念式典 |
| 2011年度 | C号館増築(多目的ホール・ゼミ室を設置) |
| 2012年度 | 全天候対応型人工芝グラウンド設置 |
| 2013年度 | 医療看護系進学プログラム(MP)がはじまる |
| 2015年度 | 学校通信200号発行 |

同朋
歴史写真館



1961年
第1回卒業式



1961年
第1回卒業生



1970年代
商業科授業



1970年代
同朋学園全景



祝創



それぞれ



2013年度 同朋学園名古屋キャンパス全景



史記、
詩經、
楚辭、
漢書、
後漢書、
三國志、
晉書、
宋書、
南齊書、
梁書、
陳書、
魏書、
北齊書、
周書、
隋書、
唐書、
五代史、
宋史、
元史、
明史、
清史。



2015年 同窓会総会



校門1960年代



校門1970年



校門1990年





'15年度 文化祭

公開日には来場者1,000名を超える！

58回を数える同朋高校文化祭。公開日には在校生・家族を中心に、他校生、中学生、卒業生、地域の方が見学に訪れ、1,000名を超える来場者となりました。

今年の文化祭テーマは「シンカ論」。「進化」「真価」「深化」など多くの言葉を連想させるカタカナ表記としました。このテーマにふさわしく、今年の文化祭はクラス企画の中で新しい試みがいくつも見られました。1年生の「創造つくる」では、コーヒーカップやジェットコースター・観覧車・プロジェクションマッピング・特殊メイクと体験型アトラクション型の企画が多く、どの教室も順番待ちで行列ができるほどでした。2年生の「同朋ミュージアム」では、テーマに添ったオリジナルCMの作成や、教室を飛び出し、野外ステージでパフォーマンスを披露したりと、立体的な発表が試みられました。3年生の「演劇」「パフォーマンス」でも新しい試みが見られ、特にパフォーマンスはさまざまなジャンルに分かれており、審査にあつた審査員を随分と困らせたようです。

3日目の本部企画では「平和とは何だろう」というテーマで、参加者で「平和」について考えました。実行委員会生徒の平和に関する

るレポートの後、沖縄から招いたゲストの方と一緒に「平和」について、多角的に学びました。1年生が参加したこの企画は新聞でも報道され、生徒たちは「平和」という言葉には多くの捉え方があることに気付く、平和の尊さを感じたようです。生徒の感想の中に「平和って何かを学ぶのもいいけど、平和のために何をするのかを考えることが大切ではないか」と学びの深さを感じるものもありました。また、名古屋第一赤十字病院の看護師を招いた「乳がん撲滅のピンクリボン運動」について学ぶ講座も開講されました。

文化祭は、生徒が主体者となり、仲間と力を合わせてつものを作り上げる大切さや困難さ、そして作り上げた時の喜びを学ぶ大きな装置です。今年も多くの生徒がこの装置を通して「同朋文化祭の伝統」を学んだのではないのでしょうか。今年の新しい試みが来年へとつながり、さらに「シンカ」した文化祭となるよう生徒教職員で知恵を出し合っていると思います。文化祭の成功には保護者の皆様のご理解とご協力が必要ですので、今後ともよろしく願います。

(文化祭総務担当／瀧 正範)

文化祭 受賞クラス一覧

アカデミー賞 (学年・部門別最優秀賞)

3年生	演劇部門	310	ANNIE
	パフォーマンス部門	309	DOHO HIGH SCHOOL MUSICAL
2年生	同朋ミュージアム部門	209	大阪(まつり・USJ)
1年生	創造・つくる部門	103	Welcome to 竜宮城 with コーヒーカップ

ベストクラス賞 (来場者による投票)

2年生	同朋ミュージアム部門	201	名古屋の歴史
1年生	創造・つくる部門	107	CHAMBER OF HORRORS





演劇部門アカデミー賞

本気で向き合ってくれる仲間がいる教室

310 原 かなで (藤森中学校出身)

文化祭を振り返ってみて、310のみんなと演劇ができ、幸せだったと感じます。

所属する演劇部では、3年生最後の大会で思うような結果が残せず、その気持ちを引きずったまま文化祭の練習に参加することになりました。もともと行事は得意ではなく、「元演劇部」という肩書きがなかったら積極的に参加することはなかったかもしれませんが、それらを踏まえ、自分のモチベーションは最低。体調もグダグダ。クラスの集まりは悪い。と残念な始まりでした。

それでも頑張ろうと思えたのは、忙しい中でも参加してくれる人や、とにかく毎日来てくれる人、話を真剣に聞いてくれる人、この文化祭に本気で向き合っている人達が教室にいてくれたからだと思います。頑張った分だけ笑



い合つて、支え合っている環境というのが大切だと改めて実感しました。参加するうちに、演出という役割の義務感で足を運んでいたのが、ただ単純に楽しめ、少しでもみんなの力になりたいからという考えに変わっていききました。それでも、上手くいかないときは悔しいし、辛いし、帰りたいと思つたこともあります。でもその気持ちを上回るような、みんなに対する感謝があつて踏ん張り続けることができました。

演出担当をして、クラスのみんなの温かさを知りました。一緒に頑張ったことが「嬉しい」と素直に思いました。こんな頼りない私が、こんなに大事な役割をして、それを最後まで支えてもらえて、幸せといういうことを言うのかと思いましたが、みんな演劇を作りと上げる機会を得たこと、そんな中で支えてくれた仲間やたくさんの方々、観てくださったお客さんに感謝の気持ちでいっぱいだと思います。

創造・つくる部門アカデミー賞

絶対にイイものを作る！

103 作間 玲衣 (菊井中学校出身)

他のクラスがまだ「文化祭」という文字すら頭に浮かべていない頃から、私たちのクラスはクラス企画の準備を進めていました。まだいろんなことを知らない私たちは、先生の話を聞くだけでしたが、「文化祭で良いものを作るんだ」と思い込んでいました。

だんだんと他のクラスも準備をはじめるとは、私たちは完成のイメージが想像できていて、焦ることもなく当日を迎えることができました。

文化祭当日は、本当にたくさんの方が来てくれて、コーヒークップを回すのがとても大変だったけれど、すごく楽しかったです。コーヒークップに乗ってくれた人は、最後に必ず笑顔になって帰ってくれたので、めちゃくちゃ嬉しかったです。準備でなかなか上手くいかなかった複雑な気持ちになったりすることもありましたが、お客さんが笑顔で「ありがとう」「楽しかった」と言うてくれたので、頑張て良かったと心から思いました。

他のクラス企画もクオリティが高く、私も思いつきを取りかきで、本当に嬉しかったです。コーヒークップに何回も乗りに来てくれる人もいました。カップを回す係も楽しかったし、実際に自分が乗っても楽しかったです。1年生の最初の文化祭で受賞でき、本当に良かったです。



材料や道具などを貸していたり、無料で使わせたりいただいたり、いろいろな人に支えられ、応援されてくれた賞だと思えます。来年の文化祭も楽しい物が作れたらいいなと思います。

パフォーマンス部門アカデミー賞

本気から生まれた感動

309 浅野 かり (豊正中学校出身)

私たちのクラスはパフォーマンス部門に参加しました。「学校をテーマに、構成をみんなで考えました。夏休みに入るまで何も決まっておらず、多くの人が焦っていました。けれど、夏休みに入ってから少しずつ細かくなっていき、良い雰囲気になってきました。ただ放課後の練習やシルバークの練習に参加しない人もいて、せっかく大型連休で練習時間があるのにもったいないなと思っていました。一生懸命取り組むことで、嫌なこと、傷つくことも多くなると知りました。

文化祭初日、体育館ステージでの発表はとても緊張しました。「間違えたらどうしよう。でも振付を一生懸命に考えてくれた人がいるのだからやり遂げなければ」と思いながらステージで踊りました。少し音楽からズレたところもありましたが、やり遂げることができました。

2日目、野外ステージではまったく練習をしていなかった中で、野外での発表はとても不安でしたが、ステージ上やステージの下をうまく使い、やり切ることができました。野外での発表が終わった時にはとても達成感がありました。いよいよ同朋アカデミー賞の発表。昨年に引き続き、商業科でアカデミー賞を獲得したいという気持ちが強かったこともあり、とて



もドキドキしていました。まず演劇部門で「310 ANNIE」と発表された時は、まるで自分のクラスのように嬉しかったです。次にパフォーマンス部門で「309 DO HIGH SCHOOL MUSICAL」と発表された瞬間は、驚いたと同時に感動しました。これが「感動」というのだと実感しました。文化祭最終日に再演ができ、再び達成感を味わえたことも嬉しかったです。

今までの文化祭ではこんなに感動したことがありませんでしたが、それは自分自身の本気度や気持ちの足らなかつたのだということが分かりました。これにはもつと早く気付きたかったです。今回の経験を活かし、これからは何事にも悔いを残さないよう取り組みていきます。

文化祭 実行委員長より

202 生田 瑞貴 (春日井市立東部中学校出身)

今回の文化祭テーマ「シンカ論」は、さまざまな意味が込められていました。新たな挑戦による企画の進化や学びや絆の深化。まさに私たち同朋生が真価を発揮できる場となりました。

クラス企画は、各クラスが7月から準備に入り、夏休みやシルバークを使って完成させました。どれも本当に素晴らしかったです。1年生の本部企画では、平和について考えました。沖縄から、がちゅんぐの皆さんに来ていただき、私たちがこれから考えるべき「平和」とはどのようなものかを一緒に考えました。

文化祭は支えていただく多くの力のおかげで成功しました。リハールからエンディングまでずっと音響や照明を担当してくれた演劇部や放送部のみなさん。野外ステージを制作してくれたクラ連や生徒会のみなさん。自転車棚を運んだりテントを張ったりしてくれたクラブのみなさん。文化祭のために動いてくれた実行委員のみなさん。たくさんの方の力があつたからこそ無事に終わることができました。本当にありがとうございました。

Clipping Report

9月29日付毎日新聞記事 (9月28日付中日新聞にも取り上げられました。)



同朋ミュージアム部門アカデミー賞

大きなモノUMENTから大きなインパクトを

209 今井 康介 (津島市立神守中学校出身)

クラス企画のテーマは「大阪」。もちろん一生懸命に取り組んだのですが、正直なところアカデミー賞をいただけるとは思っていませんでした。驚きが大きかったです。

今までの経験から、夏休みの活動が大切なことは分かっていたが、十分に作業を進めることができなかったです。でも、せっかく夏休みが集まったのだから、できることから作業を進めよう、教室の入り口に掲げる大きな蟹のモニュメントの製作作業を始めました。大阪と聞いて

思い浮かべるものといえば、道頓堀の動く蟹の看板です。この蟹の脚をどうしようか？胴体は？ハサミの部分は？と集まったメンバーで考えました。最初に考えていたサイズではインパクトが小さいだろうと、話し合いの結果3〜4倍ほどの大きな蟹を作ることにしました。

大きなサイズにしたこともあり、蟹の脚がうまく取り付けることができて、文化祭当日まで修理を繰り返しました。



の街を再現した大きな製作物をたくさん作りました。教室内のレイアウトも苦労しました。担当したグループ間の交流が少なく、進行状況の確認ができなかったことも理由の1つだと思います。

最終的には、なんとか形となり、結果としてアカデミー賞をいただきました。おかげでグループの垣根を越えて、クラスみんなで喜ぶことができた。クラスの中に、それぞれの働きを認め合える雰囲気できたと思います。

好天にも恵まれ、PTAバザー開催！

今年も文化祭2日目に、PTA四委員会(事業・文化・地域懇話生活指導・父母懇友の会(保護者OB/OGの会)によるバザーが実施されました。

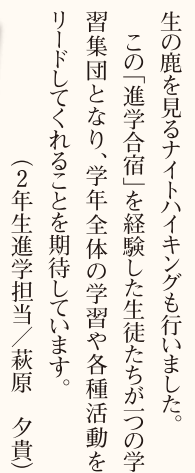
当日は、好天にも恵まれ、また来場者の多さにも助けられ、各委員会とも収益を上げることができました。保護者によるバザー・出店者反省会の席上で、各委員会委員長からバザーの様子が報告されました。事業委員会からは「焼きそばの材料のキヤベツが思ったより高かったのですが、みなさんたくさん買っていただけました！」との報告があり、その後も「喫茶担当の文化委員会は、気温が高く、冷たい飲み物が売れ好調でした！」「地域懇話委員会は、朝から一生懸命、唐揚げを揚げました！」「物品バザーを担当した生活指導委員会です。在校生保護者の皆さんからたくさん品物を提供していただき、ありがとうございました。」と報告を受けました。また、父母懇友の会からもバザーにたくさんの方々があつたと、喜びの報告を受けました。今年度のPTAバザーは、合計で18万2316円と昨年より約3万円多い収益金がありました。



なおこの収益金につきましては、例年学校生活に必要な備品購入等に使わせていただいております。使途が決まりましたら、保護者の皆様にお知らせいたします。PTA常任委員の皆様をはじめ、出店いただいた皆様には、バザーの準備から当日の運営、後片付けまでご協力いただきました。本当にありがとうございました。

(総務部長/宮城 道良)





(2年生進学担当／萩原 夕貴)

勉強だけでは味わえない体験を共に

8月2日(日)から3泊4日の日程で、休暇村茶臼山高原を会場に2年生34名が参加しての「2年生茶臼山進学合宿」を行いました。

今年度は英語・数学は習熟度別のクラスに分け、現代文または化学の選択授業を設定し、各科目少人数できめ細かい指導体制をとりました。初めて解く大学入試問題に悪戦苦闘しながらも、夜遅くまで真剣に取り組み、自主的に予習や復習に取り組み姿を見ることができ、担当教員一同嬉しく思いました。また、参加者全員を対象とする小論文講座は、文章を正しく読み取り、どのように文章にまとめればよいのかを理解しながら取り組むことが難しかったようです。

早朝の新鮮な空気の中、ラジオ体操をし、高原を散策し、頭と体を起こしてから勉強に向かうことで、より集中して学習合宿に取り組むことができたのではないだろうか。学習後には、花火や野生の鹿を見るナイトハイキングも行いました。

この「進学合宿」を経験した生徒たちが一つの学習集団となり、学年全体の学習や各種活動をリードしてくれることを期待しています。

人馬一体
仲間と目指すインターハイ

208 奥田 圭悟 (日比津中学校出身)

僕は同朋高校に入学してから乗馬を始めました。中学3年生の時に同級生に誘われて部活動体験に出かけたことが入部するきっかけになりました。乗馬部に入部するまでは「乗馬部って馬に乗るだけかな」と勝手に予想していました。しかし、実際はまったく違ってました。馬に乗った後は、馬の全身をお湯で洗い、朝夕の1日2回飼葉を与える。やらなければならぬことがたくさんあります。それらのすべてを自分たちで行うことに、大きな衝撃を受けました。毎日のように馬の世話をしていると、自分に責任感が身についてきたように感じます。

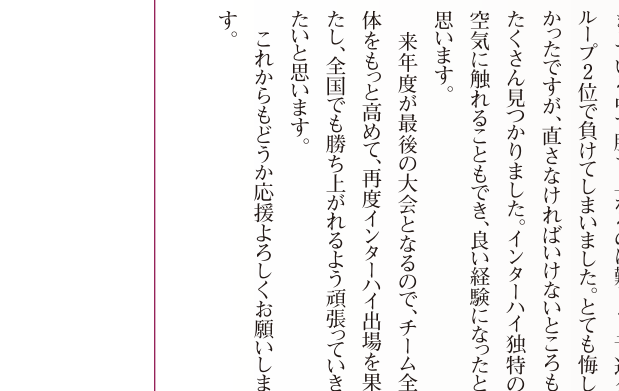
いときもあります。そんな時に上手な人が乗ると、見違えるほど良い動きをするようになります。馬術は本当に奥が深いと思います。そのような考えで、毎日馬に乗ることが、インターハイ出場に結びついたのだと思います。

インターハイには、多くの学校は3年生が出場します。しかし同朋馬術部には3年生がいまないので、乗馬歴1年の2年生が出場することになりました。とても不安でしたが、昨年の愛知県新人戦で団体優勝していたので、気持ちは少し楽でした。

いよいよ富士山麓の御殿場市でインターハイが開催されました。開会式には毎年皇族の方が参加するそうで、今年は秋篠宮内親王の佳子様が参加されていました。試合では今ある力をすべて振り絞ったのですが、強豪が集まっている中で勝ち上がるのは難しく、予選グループ2位で負けてしまいました。とても悔しかったのですが、直さなければいけないところもたくさん見つかりました。インターハイ独特の空気に触れることもでき、良い経験になったと思います。

来年度が最後の大会となるので、チーム全体をもっと高めて、再度インターハイ出場を果たし、全国でも勝ち上がれるよう頑張っていきたいと思います。

これからどのようにか応援よろしくお願いします。



シンガーソングライター

あきいちこさん（2002年度普通科卒業）

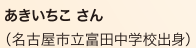
シンガーソングライターになるのが
中学生のころからの夢

現在「あきいち」というアーティストネームでシンガーソングライターとして活動しています。CD製作はもうもちろんライブハウスや野外イベント、ショピングモールなどでのライブ出演のほか、さまざまなお仕事をしているのですが、シンガーソングライターになるのが中学生からの夢で、その頃から曲作りを始めました。同朋高校普通科卒業後は、音楽の専門学校に入塾し、2年間音楽漬けの毎日を送りました。2005年のデビューからは、現在のような活動を続けています。

もない、安定していない職業です。だからこそ、自分がか一番しかりが必要ですね。観る人を感動させ、人に夢を与える仕事ですから、独自の角度で物事を見るセンス、オリジナリティ、技術：何か一つでも光るものがなければいけません。毎日それを磨き続ける意志の強さも必要です。

努力だけではなく、運やタイミングにも大きく左右され、想像以上に大変な仕事ですが、やっぱり音楽というものは素晴らしいですし、ライブでお客さんの喜ぶ顔を見た時は、本当にうれしく、報われたような幸せな気持ちになります。

私には幼いころから音楽が大好きで、中学校では吹奏楽部に所属し、高校も吹奏楽部がある同朋高校を選びました。私服で登校できたり、珍しい部活動が合うたり、普通科だけでなく商業科や音楽科があり、土曜講座座があったりと、幅広くな。さんの経験ができそうな雰囲気があることも、同朋高校に魅かれた理由でした。入学してからの3年間は、吹奏楽部の活動に打ち込み、作曲りの頻度は少なくなりましたが、管楽器は腹式呼吸を身につけるのにとっても役立ち、アンサンブルの勉強にもなっているので、今でもその経験が活きています。



2014年1月より、東海ラジオ「金シャチ劇場」(毎週金曜日24:00～27:00放送)パーソナリティに。2014年3月より、テレビ愛知「天気予報」(毎週火曜日22:54～)で、オリジナル曲「Step Step」が起用。2015年4月より、@FM「NAGOYAKA」パーソナリティに抜擢。

● 第49回全日本高等学校馬術競技大会東海大会 グループ2位
全国大会出場

● 第62回NHK杯全国高校放送コンテスト愛知県大会
ラジオドキュメント部門 「伝えたいもの」(ことばの力) 優秀賞 **全国大会進出**
テレビドキュメント部門 「私、キレイ?」(人にとっての化粧) 入賞
ラジオドラマ部門 「リアルアバター」(分身供給) 努力賞
朗読部門 入選 山田 琴音(309 / 平田中学校出身)

● 第62回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会
ラジオドキュメント部門 「伝えたいもの」(ことばの力) 準々決勝進出

●平成27年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会愛知県予選会

男子55kg級	第2位	杉浦 冬唯(102・岐阜市立岐阜西中学校出身)
男子73kg級	第3位	吉田 有陽(304・豊川市立西部中学校出身)
女子44kg級	第2位	大野 楓佳(111・白川村立白川中学校出身)
女子48kg級	第3位	琴美(304・松坂市立白川中学校出身)

●平成27年度少年女子国民体育大会柔道競技愛知県二次予選会

女子52kg級	第3位	大野 夢美(304/ 松阪市立中部中学校出身)
女子53kg級	第3位	吉田 美森(104/ 豊川市立西部中学校出身)
女子70kg級	優 勝	小山 華奈(306/ 豊川市立東部中学校出身)
女子70kg級	第3位	小山 真季(107/ 豊川市立東部中学校出身)
女子無差別級	第3位	金田 綾(101/一宮市立千秋中学校出身)

● 平成27年度愛知県私立学祭体育大会

高校男子団体	第3位	
高校女子団体	第3位	
高校女子個人	第3位	金田 美香(308/宝神中学校出身)

●平成27年度愛知県高等学校新人体育大会陸上競技名南支部予選会
男子砲丸投 第6位 奈木野 京介(109/富田中学校出身)

●平成27年度愛知県私立祭体育大会
男子砲丸投 第6位 奈木野 京介(109/富田中学校出身)

● 平成27年度名古屋南支部サッカー大会 第4位

● 平成27年度愛知県高等学校男子ソフトボール順位大会 第4位

●平成27年度夏季名古屋南支部バスケットボール選手権大会 優勝
●第57回市民スポーツ祭 3位

● 愛知ジュニアサマーテニストーナメント
18歳以下女子ダブルス 準優勝 加藤 愛美里(206/長良中学校出身)

● 第12回飛騨市長杯ラグビーフットボール大会 準優勝
● 平成27年度第70回国民体育大会ラグビーフットボール少年の部 第3位
愛知県選抜選手 服部 隼大(310/蟹江町立蟹江中学校出身)

● 2015年度愛知県吹奏楽コンクール名古屋大会 プライマリーの部 銀賞

● 全日本学生音楽コンクール
声楽部門 名古屋予選通過 竹谷 早織(211/みよし市立三好中学校出身)

● 第2回国際バレエコンクール イン 名古屋
奨励賞 二村 康哉(307/豊正中学校出身)

● 第25回全国バレエコンクール in Nagoya
第3位 二村 康哉(307/豊正中学校出身)

Club & Award News

神 俊八喜(津島守中)	戸田 誠大(一柳中)
野口 順平(清州中)	秦野 恵輔(若葉中)
岩井柚衣花(日比野中)	小関 万葉(美和南)
川口 恵里(大治中)	久野 瑞稀(如知中)
玉木 陽菜(宝神中)	服部 友香(御田中)
古里 和栄(七宝中)	前島 綾音(豊正中)
山下 貴実(篠原南中)	山森 彩乃(供米田中)
芝田 有輝(豊正中)	服部 隼大(螢江中)
牧野 壮留(沼津南校中)	出口真実子(高杉中)
奥野 真衣(山王中)	我那霸愛華(七色中)
酒井佳奈江(比叡少中)	沢井菜々恵(名家中)
楯 紀美子(新川中)	服部 夏実(高杉中)
深見 彩乃(新川中)	福安 幸叶(螢江中)
増田美保子(岩倉南部中)	山口歩乃佳(新川中)

愛知県は職業資格の取得を通して、技術・技能の習熟の意識をもつて充実した学校生活を送り、将来に渡り豊かな職業生活を営むことを目的とした技術認定制度があります。

本校からも日頃の学びの成果が表れ、商業科3年生の生徒を中心に42名の生徒に対して、愛知県知事から職業教育技術顕彰が授与されました。

顕彰が授与されたことを自信と感じ、これからも学びに対して真摯に取り組んでもらいたいです。



職業教育技術顯彰

オーストラリア・ ホームステイプログラム

(国際交流委員会／杉浦 智晴)



大自然の中で過ごした2週間

203 作田 夏実 (山田中学校出身)



私は、幼い頃から外国や英語に興味があり、実際に海外で生活をしてみたいとの強い思いから、このホームステイプログラムに参加しました。

しかし、この私の思いを両

親に話したことがなく、突然「オーストラリアで夏休みの2週間ホームステイしたい」と言ったときはとても驚かれました。初めは乗り気じゃなかった両親も、私が真剣に話をする、「本気で頑張りたいなら行ってきたさい」と言ってくれました。

1学期に友達から「1人でホームステイするのって怖くないの?」と言われたとき、人生で初めての海外であり、初めてのホームステイだったこともあり、「怖い」よりも「楽しみ」という思いしか感じていませんでした。

A photograph showing a group of about ten people, mostly young adults, sitting and standing on a large, realistic sculpture of a crocodile or alligator. The sculpture is positioned on a paved path in a park-like setting with trees in the background. The photo is tilted slightly to the right.

しかし、ホストファミリーと過ごしたオーストラリア初日に、私は絶望を味わいました。ファミリー全員が私のことを気にしてくれて優しかったのですが、ファミリーの話す英語を聞き取ることができず、どうして良



いかわかりませんでした。「オーストラリアに来ることが間違っていたのかな」とも思いました。しかし、いろんな人の支えがあってオーストラリアに来たのだから、ここで諦めてはダメだと自分に言い続けました。

しばらくの間は、ホストファミリーとほとんどコミュニケーションを取ることができませんでした。そこで思い切って自分から行動に移しました。学校には毎日お弁当を作っていました。そのお弁当箱には“Thank you very much :)” “It was very yummy!”と書いたカードを入れるようにしました。また休日にマーケットや水族館、遊園地に連れて行ってもらったときも“Thank you for today!” “Today was so fun!!”と書いてその日の夜に渡していました。メッセージカードを渡すたびにホストファミリーみんなが喜んでくれて、すべてのカードを冷蔵庫に飾ってくれました。そのおかげでホストファミリーと一気に打ち解けることができました。



2週間という短い時間でしたが、ホストファミリーや友達とたくさん
の思い出を作ることができました。言葉はあまり通じませんでしたが、
伝えようと一生懸命毎日
頑張りました。その結果、
人と関わることの大切さ、
楽しさを学びました。今ま
では、正直なところ人と関
わるのが面倒だなと思っ
ていました。しかしオースト



リアリに出かけ、人とコミュニケーションをとらないと何も始まらないし、人として成長できないと気づきました。この2週間で自分でも驚くほど、自分の中で変化がありました。こんなに成長させてくれたホストファミリーや友達に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからさらに英語を勉強して、もっと英語を話せるようになりたいです。そして来年もオーストラリアに行きたいです。

アンサンブル演奏

責任の感じ方

311
黒川 真洋
(楠中学校出身)

真洋
(楠中学校出身)

高校生として最後のアンサンブル演奏会は我慢がへりました。私は同じ学年の友達と、それを組まないかと思っていたのですが、それができないと分かり、悔しくて泣きながら辞退を申し出ました。演奏会出演は義務ではありません。中途半端な気持ちの私よりも、やる気のある仲間が出演するほうが良いと思っただけです。それでも先生は私を出演させようと薦めてくださいました。それを知り、「やるしかない」と思いました。私と一緒に演奏することになったのは、2人の2年生でした。今までほとんど話したことがなかったで、「私と一緒に大丈夫かな」と不安な気持ちもあり、その時点でも「辞退すべきではないか」と毎日のように悩んでいました。でもそれは一緒に演奏してくれる相手の子たちだと失礼なことだと気づき、先生方から最後のアンサンブル演奏会出演の機会をいただいたのだから、逃げてばかりではダメだと、謹読みを始めました。

私はピアノよりもアンサンブルが好きです。運の良いことに、今までアンサンブルは幾度か取り組むことがあったので、それを活かすことのできたと思います。もちろん不十分な部分はありますが、それにも文句を言わず2年生の2人は私についてきてくれました。彼女たちは素直で、私が教えられることもたくさんありました。むしろ勉強させられてばかりで、毎回の練習では音楽を楽しむことができませんでした。ピアノの先生、ヴァイオリンの先生、そして私のチェロの先生にも指導していただけたことは、3人にとって貴

当日はリハーサルで音が響きすぎてしまい、どうしようかと部屋ですつと悩み続けました。私は自分の音に不安しか持てなかったため、自分にブレッシャーをかけてすぎたのだと自認します。しかし本番前にはみんなが声をかけてくれて、100%ではありませんでしたが、納得いく演奏ができたと思います。最後の二音がそろった時、終わった安堵と、終わってしまった寂しさを感じました。舞台裏で2人に「お疲れ様」というと「楽しかった」と言い返してきて、ここまで頑張ってきたのに満足感が涙が止まらなかったんです。自分へのブレッシャーが2人のお陰で軽くなっていたのを感じて、このメンバーでよかったと改めて感じました。

今回こうやって後輩と共に演奏できたことは、自分にとって必ず経験すべきことだと自認します。また、一緒に演奏できたことに幸せを感じています。遅くまで残って練習した日は決してムダではなかったと感じます。

第47回 同朋高校音楽科

卒業演奏会

2016年1月8日(金)
会場：ザ・コンサートホール
(伏見・電気文化会館内)
開場：18時00分
開演：18時30分
多くのみなさまのご来場をお待ちしております。

**入場
無料**

PTAバスツアー 今年彦根城・黒壁スクエアを満喫しました!

8月23日、76名の参加者を乗せて滋賀県彦根市へバスツアーに出かけました。午前中は、彦根城や夢京橋キャッスルロードの散策。昼食は「北ビワコホテルグラツィエ」で懐石料理をいただき、2時間の昼食時間があつという間に感じるほど、和気藹々とPTA会員同士親睦を深めました。

午後は黒壁スクアアを自由散策。手焼きせんべいや鯖寿司などご当地のお土産を購入したり、喫茶店でゆっくりお茶を飲んだりとみなさんにお楽しみいただきました。

PTAバスツアーを企画いただいた文化委員のみなさんに丁寧な準備をいただいたこともあり、大変楽しいバスツアーとなりました。

(PTA文化委員会担当／日比 伸子)

